

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年							2025年												
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ～5日	10月 ～12日	10月 ～19日	10月 ～26日
カンピロバクター	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	23	36	38	43	27	5	7	9 (10)	4
病原性大腸菌	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	71	93	78	97	83	15	14	11	6
腸管出血性大腸菌	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	2	3	3	2	0	0	1	0	0
サルモネラ	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	6	11	12	11	11	1	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	9	16	8	28	10	6	3	4	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	9	11	5	16	10	1	2	3	4
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	1	1	2	2	2	1	0	0	0
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	6	2	2	0	3	0	0	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報

令和7年第43週(10月20日～10月26日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5	1		1	1		1	1
三類	6	腸管出血性大腸菌感染症	6		1			2		3
四類	8	日本紅斑熱	6	1		3				2
		日本脳炎	1							1
		レジオネラ症	1			1				
五類	48	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1		
		梅毒	3			1		1		1
		播種性クリプトコックス症	1			1				
		百日咳	43	3	15	1		14	2	8

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
北部 … 三次市、庄原市● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年43週(10月20日～10月26日)

■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり3.80人の報告があり、前週の約2.4倍に増加しました。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が第43週に1件報告されました。手洗いの励行、咳エチケット、換気など、感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
第43週 A型:38人、B型:0人

2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり4.83人の報告があり、多い状況が続いています。

3 流行性角結膜炎

定点当たり2.75人と、多い状況が続いています。アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 百日咳

14件の報告があり、減少傾向ですが、例年より多い状況が続いています。乳児は重症化リスクが高く、特に注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	急増減	前週と比較しておおむね
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	2070	59.14			小児科	突発性発しん	2	0.09	0.27		急増減	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
	インフルエンザ	133	3.80	3.83			ヘルパンギーナ	3	0.14	0.63		増減	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	新型コロナウイルス(COVID-19)	53	1.51				流行性耳下腺炎	3	0.14	0.03		微増減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
小児科	RSウイルス感染症	29	1.32	0.12		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05		横ばい	ほとんど増減なし
	咽頭結膜熱	4	0.18	0.53			流行性角結膜炎	22	2.75	0.63			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	2.64	1.18		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-			
	感染性胃腸炎	74	3.36	2.71			無菌性髄膜炎	1	0.17	-			
	水痘	7	0.32	0.11			マイコプラズマ肺炎	29	4.83	1.23			
	手足口病	13	0.59	1.31			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-			
	伝染性紅斑	16	0.73	0.04			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03			

(注) 過去5年間の同時期平均
(定点当たり)

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	28	20歳代・O血清群不明、40歳代・O血清群不明
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	15	70歳代
5	梅毒	1	127	30歳代
5	百日咳	14	987	10歳未満・3人、10歳代・3人、20歳代・1人、30歳代・2人、40歳代・2人、60歳代・2人、70歳代・1人